

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所として、ゆっくり、一緒に、楽しむ、と 言うことを大切に考え「その人らしく暮らす家」 という理念を掲げている。	○	「地域住民との交流の下で」と、グループホーム の基本方針があり地域の行事等に参加している が、具体的な内容は掲げてない為今後検討して いく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼や日々の介護の中、カンファレンス等 の際に入居者の方への具体的な対応等話し合っ ている。	○	理念について、更なる検討を図り取り組んで行 きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続 けることを大切にしたい理念を、家族や地域 の人々に理解してもらえよう取り組んで いる	家族には、地域の中で暮らして行ける様に随時話 しているが、地域への啓蒙は不十分である。	○	グループホームの理念や役割について、運営推進 会議を通し、委員の方々から提案してもらって いるが、今後実現へ向けて検討していく。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声 をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえ るような日常的なつきあいができるように 努めている	お散歩等で近所の方と声を掛け合っている。ま た、近所の方から野菜やお花を頂いている。	○	多くが玄関先で終わってしまっているのが、より 深い馴染みの関係になるように検討していく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活動 に参加し、地元の人々と交流することに努 めている	地域の行事等に参加し、近所の知り合いに会う等 交流できている。	○	全体的には主に行事に参加しているが、地域との 連携を図る為にも自治会、老人会、地域活動にも 参加できるように検討していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>運営推進会議を通し委員の方々（地域包括支援センター職員、民生委員、居宅介護支援事業所職員）に意見を聞き取り組んで行けるようにしたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>自己評価では日々の介護の再確認となり、外部評価ではこれまでのハード面への対応や、記録等の改善に取り組んできた。</p> <p>検討課題は他にもあるが、今回の自己評価、外部評価をもとに再検討して行きたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>委員の方々には、ホームでの取り組みやサービス評価について説明し、意見を出してもらい取り組んでいるが、取り組みとして不十分な物がある。</p> <p>地域への啓発、連携が今後の課題となっているので、会議を通して今後も検討して行きたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<p>事故発生時、報告書等提出して対応等の検討をしている。</p> <p>事故発生以外にも、市担当者との連携を図り運営規準や遵守状況についての確認等をしていき、サービスの質の向上に取り組んで行きたい。また、今後は認知症介護指導者を中心に市との連携を図り、認知症に関する取り組みを一緒に行って行きたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>研修へは参加しているが、現在、必要とされている人はいない。</p> <p>職員が権利擁護に関する理解を深められるよう、研修の機会を増やし必要に応じ対応できるようにしていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>職員は、虐待について随時研修を受講している。また、人権事故係りを設置し検討を重ねている。</p> <p>今後も人権事故係りを中心とし検討を重ねて行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退去時に十分説明を行い納得してもらえるようにしている。	○	入退居後も疑問や質問等出てくる場合があるので、随時説明をしていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自分の意見を自由に言えるように、また、コミュニケーションの中から思いを引き出し、話せる環境を整えている。また、個人の希望により外部者へ話せる機会も設けている。	○	今後もコミュニケーションを多くとり、意見を引き出していくようにする。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の利用料請求時に近況報告の手紙を添えたり、ご家族面会時に直接報告、状況により電話等での報告、また、個人のアルバムや広報誌を作成等して、個々に合わせた報告をしている。	○	今後も定期的、また、個々に合わせて報告できるようにして行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来居時には、意見の情報収集に努めており、意見や不安等について表せる機会を設けている。外部者へは具体的には表せてないようで、外部者からの情報は無い。	○	ひかりの苦情相談の用紙はあるが、書きやすい状況に無いので検討していく。外部の相談機関の情報を随時提供していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案はされているが、十分反映されているとは限らない。	○	管理者は職員の意見を引き出す努力をし、運営者に伝え反映を期待したい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族の要望や行事等ある場合は、職員の員数、時間帯を考慮できるような勤務体制をとっている。	○	今後も、利用者や家族の要望を引き出し、対応していくようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設時から管理者は変わっておらず、他職員の移動は極力最低限にしている。</p> <p>○</p>	<p>新職員の場合、入職前に触れ合う機会を作り顔なじみになるようにしていく。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修の年間計画を立て、研修が受けられる努力をしている。法人内研修は、随時受講している。</p> <p>○</p>	<p>研修の受講だけに収まらず、職員に周知を図り内容の検討、随時勉強会にも役立てて行きたい。また、外部研修だけでなく、現状を考え内部研修や勉強会も進めて行きたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者との交流はほとんど無い。研修を通して他事業所と情報交換をし、サービスの質の向上に努めている。</p> <p>○</p>	<p>今後職員間で話し合い地域のグループホームとの交流を検討して行きたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>入居者や他職員の目を気にせず休める場所を確保している。また、職員間の親睦会を行ったり、法人職員、管理者が、随時職員への声掛けを行っている。</p> <p>○</p>	<p>職員の不安や不満、希望等を相談できるように、コミュニケーションに力を入れたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、月1回の定例会を通し管理者と情報交換をし、常に向上心を持てる様な言葉を発信している。</p> <p>○</p>	<p>今後も運営者に確実な情報提供をし、運営者の思いを職員全体が共有していけるようにしたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人自身からの情報は少なく、家族からの情報がほとんどである。	○	今後は、本人からの情報を聞く機会を作っていくようにする。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	時間をかけ聞く機会を作っている。	○	今後も、随時聞く機会を作って行きたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態を聞き、情報の提供をしている。	○	今後も、各方面の情報を提供して行きたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	個々の状態により、自宅や施設へ職員が会いに行ったりしている。また、開始前にホームにお茶を飲みに来てもらったりしているが、回数的には少なくほとんどがいきなりのサービス開始となっている。	○	今後は、デイ感覚でホームにお茶を飲みに来てもらう等してから、利用を開始できるようにして行きたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	趣味、特技、裁縫、歌等を一緒にやりながら、入居者に教えてもらったり相談にのったりして、喜怒哀楽を共有している。	○	今後も一緒に暮らす家族として、本人の意向を引き出し支えあう関係を築いて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居前や入居後の面会時等を利用し、家族と話す機会を作り、本人の状況や希望を伝え、一緒に支えて行ける様働きかけている。	○	今後も、多くの家族の方に、一緒に支えていくことの大切さを理解して頂く様に、働きかけて行きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前や入居後の面会時等を利用し、職員は、家族と話す機会を作り関係の修復に努め、疎遠になりがちな家族へは、行事等への参加の呼びかけをしている。	○	今後も本人や家族の思いを大切にし、より良い関係が築けるように働きかけて行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、本人から情報収集をして出かけたり、老人会の人が会いに来たりできるように声掛けをしている。	○	馴染みの友人知人との関係が途切れないよう、声掛け以外の方法を検討して行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶を飲む時やレクの時等、気のあう方と同じテーブルになってもらったり、他の方とのコミュニケーションの間に入る等して、関わりをもてるようにしている。また、生活の中でできない事を、できる利用者が手助けをしている。	○	職員がつい手助けをし過ぎてしまう所があるので、利用者同士の関わりがより深いものになるような、声掛け見守りをして行きたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族や退去後利用の施設、病院関係職員とコンタクトをとり、職員がその状況を知っている。	○	今後も、相談援助に応じられるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとり意向の把握に努めている。困難な場合は、職員で意見を出し合い生活歴を探りケアをしている。	○ コミュニケーション以外にも、家族や外部者へ本音を言う時があるので、家族や外部者からの情報収集もし意向の把握に努める。意向の把握が困難な場合は、家族からの情報収集、個人の現在の状況分析をし検討していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、家族、利用施設より情報収集をしている。また、随時、情報収集をしている。	○ 今後も情報の把握に努めて行き、職員間で情報の共有の徹底を図りたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々、その方の言動を大切にしながら記録に残し把握するようにしている。	○ その人のできる力、分かる力を見落とさず、記録に残して行きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族から、生活歴や意向の聴取、居宅ケアマネ等関係職員からの情報収集を踏まえて、意見を出し合い介護計画を作成している。また、次の介護に繋がる記録の書き方をしている。	○ 家族から、気づきや意見、要望が十分意伝えてもらえるような働きかけをしていきたい。また、本人からの十分な意向の把握にも努めて行きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居後2週間は暫定プラン、その後3ヶ月、6ヶ月、介護保険更新時等で見直しをしている。変化が生じた場合は、随時、家族の意見を聴取していき話し合いを設け、申し送りノートを利用しプランの追加、変更をしケアの共通を図っている。	○ 一律なプランの期間になっているので、細かな期間の設定も検討していく必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、次の介護に繋がる記録に心がけている。また、情報の共有が図れるように申し送りノートを利用している。	○	情報の共有のレベルを高められるようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの場所への外出や知人への訪問、検査の送迎等している。	○	他の介護保険サービス、自主サービスで利用できるものがあるか検討していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事等でボランティアの方に来て頂き一緒に歌ったり、踊ったりしている。近所の知り合いの方が多いので、喜ばれている。	○	今後も一人ひとりの必要性を引き出していき日常的に協働できるように各方面との連携を図って行きたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネとのコンタクトはとっているが、他のサービスは利用していない。	○	運営推進会議の委員である、他事業所のケアマネ、地域包括支援センターと連携を図り、必要に応じて他のサービスを取り入れて行きたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に行っていない。	○	地域連携とも繋がっていく可能性もあることから、地域包括支援センター職員が、運営推進会議委員となっているので、今後検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	<p>今後も、本人の状態を適切に主治医に報告し、家族の意向もふまえながら、受診できるようにしていきたい。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>今後も、本人の状態を適切に主治医に報告し、家族の意向もふまえながら、受診できるようにしていきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>今後も、職員の中の看護師、医院の看護師との連携を図りながら、一人ひとりの健康管理をして行きたい。現在事業所看護師、医院の看護師の対応についてマニュアル作成中。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>今後も、情報提供し連絡をとって行きたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>今後も状況に応じ、家族や医師と、より細かな話し合いをし、情報の共有を図ると共に、本人の意向の把握が不十分な為、今後コミュニケーションを図り、意向の聴取に努めて行く。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>今後も変化に備え、マニュアルの把握をし支援の共有を図り、対応できるようにしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	今後も、十分な情報の提供をしていく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	個人情報保護について、具体的に話し合える機会を設け、日常的な確認と改善に向けて取り組んでいきたい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	さらに希望を引き出せるように表情、全身の反応を注意深く把握していく。断定的な言葉の表現にも注意していく。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	したいと思っている事の希望の表現が難しい方へは、コミュニケーションを取ったり、行動を見ながら、希望を引き出していくようにしていく。さらに本人一人ひとりのペースで今以上に過ごせるように検討して行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	今後も毎日自分でしたい身だしなみや、おしゃれができ、本人の希望がかなえられるように支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	お勝手が分かりづらいところにある為、職員からの声掛けで準備を行なっている。今後も、無理強いしないように本人の力量に合わせて声掛けをしていくようにする。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	今後も、本人の嗜好を引き出し楽しめるように支援をしていく。
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	定時の方もいるので、排泄パターンに合わせ対応できるように検討して行きたい。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	今後も本人の希望を取り入れ、入浴の支援をして行きたい。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	今後も生活歴や本人の希望、状態に応じ睡眠休息をとってもらえるように支援していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	認知症が進行しても支援していけるように、検討して行きたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と相談し、希望により個人でお金を管理しており、医院受診や買い物時に使えるようにしている。	○	自分で管理することが困難な方が、所持したり使いたい時に使えるように、検討して行きたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩等の声掛けやコミュニケーションを図り、できる限り希望に沿うように支援している。	○	その日その時の希望に沿えられるよう、今後も検討を重ねて行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	コミュニケーションをとり、行きたい所を引き出し、家族に連絡したり、職員と行ったりしている。	○	近隣（市内等）は今後も取り組んで行きたいが、遠方への外出ができるように、家族とも連絡をとり検討して行きたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、かけられるように支援している。	○	家族とのやりとりは支援できているが、身内以外の大切な方との関係が途切れることのないように、検討して行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族への知人や友人の来居の依頼や、来居時は、再来居の声掛けをしている。	○	知人友人等、気軽に来居で着るように、また、外出時に会った際の、声掛けの工夫等検討して行きたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為について職員間での周知が図れるよう、会議等で話し合っている。	○	職員全体が正しく理解し取り組めるように、今後も検討して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	個人の希望により居室に鍵をかけている方がいる。玄関には鍵をかけてなく、庭を自由に散歩できているが、門扉には施錠している。	○ 一人ひとりの外出の察知、外出傾向の把握をし近所の理解・協力が得られるようにして行きたい。門扉を開錠できる時間を増やせるよう検討して行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で声掛けをし、随時所在を確認している。	○ 今後も、見守りやすさを優先するのではなく、本人のプライバシーに配慮しながら見守りをして行きたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物等や異食、誤飲の可能性のあるもの等は、目に付かない所手の届かない所にしまっている。	○ 一律になくすと言うことが無いよう、今後も検討を重ねて行きたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	随時職員間で話し合記録に残し、再発防止のための検討を重ねている。	○ 今後も更なる検討をして行きたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一般的なマニュアルがあり、救命救急の講習を全職員が受けており、また、直に看護師の指示を受けられるようになっているが、定期的な訓練は行っていない。	○ 今後は実際の場面で活かせるように、定期的な訓練をして行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでの通報訓練、消火訓練、避難訓練のみで、地域の人達への協力の働きかけを行っていない。	○ 地域との連携を図って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時、来居時に家族等に説明している。	○	状況により、圧迫感を感じさせてしまっている事もある為、検討して行きたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサイン測定。また、気付いたことは、記録に残し申し送っている。	○	日頃から本人の状態を把握し十分な観察を行い、異常の早期発見に努めて行きたい。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が新しく処方になった時や、変更になった時は、薬の内容の用紙をカードックスに挟んで置き、全職員が把握できる様にしている。また、変化等記録に残し主治医へ伝える様にしている。	○	法人職員の薬剤師による、服薬についての勉強会を検討している。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多いものを取り入れるようにしている。また、散歩や体操等で体を動かす機会を設けており、水分補給にも心がけている。	○	今後も食事や運動に配慮し、一人ひとりの体調に合わせスムーズな排便ができるように支援して行きたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、困難な方は状況に合わせて職員が支援するように努めている。	○	口腔ケアの必要性を把握し、一人ひとりに合わせた声掛けをして行きたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に、メニューを1週間毎確認してもらっている。台所が分からない方へは、テーブルにピッチャーを置き、自由に水分摂取ができるようにしている。食事摂取量が少ない方は声掛け介助をしたり、食事以外に補給をしている。	○	今後も一人ひとりの好き嫌いやその時の状態を把握し、個別的な支援をして行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し実行に努めている。	○	感染症の内容により、マニュアルが一般的なものになっているものがあるので、内容の検討をしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は随時買い物に行っており、新鮮なものを使用している。毎食後まな板の消毒、定期的に台所、冷蔵庫の中、食器棚等の清掃を行っている。	○	今後も清潔な台所で、新鮮で安全な食材を利用し調理していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉の施錠はしてあるが、インターフォンを押してもらい職員が直に対応できるようにしている。近隣の方は、庭から声を掛け易くなっている。	○	さらに多くの地域の方々にとって、出入りしやすくできるよう検討していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾ったりしている。障子を閉める等して光の調整をしているが、ホームの作りにより全体的に殺風景になっている。	○	利用者、家族、他外来者の感想や気づきを取り入れ、検討していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	東ホールと西ホール、畳コーナーと別れており、思い思いに過ごされている。	○	変化が負担にならない居場所が作れるか、今後検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人やご家族と相談し持込をされているが、十分ではない。</p>	<p>○</p>	<p>本人の希望を十分把握した上で、家族とも相談して行きたい。</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>24時間ホールの換気扇はついている。エアコンに頼るのではなく、自然な風が入るように調整している。居室、ホールには、室温時計が設置してある。</p>	<p>○</p>	<p>今後も職員が、随時居室やホールの温度を気に掛け、また、本人の状況に応じて、外気温と差が出ないように調整するようにしていく。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホール内や玄関は全てバリアフリーになっており、玄関の境が分かりづらい。畳コーナーは段になっており、腰掛けたり、畳コーナーにある物に取ったり、障子の戸締りをしている。</p>	<p>○</p>	<p>一人ひとりの力を生かして動ける為には、何が必要なか今後も検討して行きたい。</p>
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>トイレには遠くからでも分かるように、大きめの文字が書いてある。各部屋には、表札や目印が目線の高さに掛けてあり分かりやすくしている。</p>	<p>○</p>	<p>ホームの作りにより、お勝手や居室等表札だけでは分かりにくい利用者があるので、一人ひとりに合わせて、分かりやすくなるように検討して行きたい。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物の周りは、畑や花が植えてあり、自由に散歩をし、花の水くれや野菜の収穫ができています。また、ベンチが置いてあり、日向ぼっこをしている。</p>	<p>○</p>	<p>より一層楽しく活動できるように、今後も検討して行きたい。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

行事はもちろん、それ以外にも入居者の希望に沿った外出を取り入れ、四季を楽しまれ馴染みの方々との繋がりもなるべく継続でき、まだまだ不十分ではあるが地域の方々の繋がりや 触れ合いも大切にしている。
 外出を通し入居者は笑顔で楽しまれ、認知症になっても生き生きと生活出来ることをそれとなく地域にアピールしている。また、触れ合いを通して地域の方々に認知症を知ってもらうきっかけともなっている。
 老健に入所している方の中に、グループホームの入居者の友人、知人もいて交流できている。
 保育園や小中学校との交流もあり、特に保育園へは行事や雑巾の寄付を通して認知症に対する考えを小さい頃から伝えられ、認知症になっても住み良い街づくりに少しでも貢献できていると思う。